

# 油の流出事故にご注意!!

北国の秋・冬シーズンは各家庭や事業所で灯油を使う機会が増え、それに伴いホームタンク等からの灯油流出事故も増加します。そして、その多くが小分け中に離れたり、ホースやバルブの破損に気づかなかつたり、不注意が原因となっています。

万が一、油の流出事故を起こしてしまった場合や、発見した場合は、すぐにお近くの消防署・警察署・市町村役場・国や県の機関にご連絡下さい。流出した油を自分できれいに清掃したつもりでも、雨とともに流れ出たり、地面に染みこんだ油が時間の経過とともに水路に出てくる場合があります。また、流出した油を水で洗い流すことは被害の拡大につながりますので、絶対にしないでください。

**油の流出事故が多発しています。**

**油漏注意!!**

流出事故の原因は、ホースやバルブの破損、小分け時の油のこぼれ、配管の接続不良などです。事故を起こすと、油の除去に費用がかかります。油の回収に要した費用は、事故を起こした原因者の負担することになります。

事故を起こした場合や、発見した場合は、お近くの消防署・警察署、市町村役場、国や県の機関へご連絡ください。

事故多発

最上川水系水質汚濁対策連絡協議会

**ご家庭のホームタンクは大丈夫?**

油流出事故を防ぐための心掛け

- 1 その場を離れない**  
ホームタンクなどから灯油を小分けするときは絶対にその場を離れないようにしましょう。
- 2 配管の場所には目印を**  
降雪による配管の破損を防ぐために目印を立てておきましょう。また、万一に備え防油壁を設置しておくとう安心です。
- 3 落雪に注意して**  
屋根からの落雪による配管の破損、配管やホームタンクの転倒に注意しましょう。
- 4 定期点検を怠らない**  
配管やホームタンクの定期的な点検を怠らぬようにしましょう。

## 油断大敵!



**灯油など油の取り扱いにご注意ください。**

毎年100件前後の油流出事故が発生!!  
毎年、最上川、赤川水系では100件前後の油流出事故が発生しています。ホームタンクの取り扱いには十分お気をつけてください。

私たちの暮らしや生態系に悪影響  
油は身近にある道路わきの側溝や水路を通して、川に流れ込みます。ほんの少しの灯油が混じっただけで水道の水は臭くなってしまいます。流出の規模によっては多くの世帯が断水し、給水車に頼る暮らしを余儀なくされることもあります。そのほか、川の水は農業や漁業にも使われています。農作物や魚類などに被害が及ぶこともあります。そのうえ、流出した油の回収は大変困難で、生態系に悪影響を与えてしまいます。

最上川水系水質汚濁対策連絡協議会

**お問い合わせ先 (最上川水系水質汚濁対策連絡協議会加盟団体)**

- 尾花沢市消防本部 保安係 ☎22-1311
- まちづくり推進課 生活安全グループ ☎35-2111 (内線 225・226)
- 国土交通省 東北地方整備局 新庄河川事務所 大石田出張所 ☎35-2024

# まちとしよ

～大石田町立図書館 information～

☎ 35-3877  
公式HP <http://niji.town.oishida.yamagata.jp/library/>

みんなでのりきろう!



- 開館時間 午前9時～午後7時 (日曜日・祝日は午前9時～午後5時)
- 休館日 毎週木曜日 《12月の休館日》2日(木)・9日(木)・16日(木)・23日(木)・28日(火)～31日(金)

12/18(土) スタート!

ほん つうちょう 「本の通帳」 はじまります!

町内在住の方は無料でつくれます!  
(2冊目以降は有料です)

「本の通帳」とは?

本物の通帳のように印刷し、借りている本のタイトルや貸出日、本の金額などを記録できます。子どもから大人まで知の貯金を楽しんでみませんか?

- 事前申込開始: 11月26日(金) 午前9時～(開館中)
- 配付開始: 12月18日(土) 午前9時～(開館中)
- 対象: 県内にお住まいの方
- 金額: 町内在住…無料 町外在住…300円
- 申込みに必要なもの: 大石田町立図書館の利用者カード。利用者登録をしていない方は、利用者登録申込書の記入と身分証明書の提示(※小学生以下は保護者名の記入)
- 申込先: 町立図書館カウンター

## 今月は、どの本を読む?

新着本から話題の本・おすすめ本を紹介します!

『天童木工とジャパニーズモダン』  
(天童木工監修、青幻舎刊)  
木工家具メーカー・天童木工が、丹下健三、坂倉準三、柳宗理、剣持勇らとの協業を礎に、時代とともに歩んできた80年の歴史を膨大なビジュアル資料でたどる。デザイナーなどへのインタビュー等も収録。

『日本語とにらめっこ』  
(モハメド・オマル・アブディン著・白水社刊)  
鍼灸を学ぶためにスーダンからやってきた全盲の青年は、どうやって日本語を身につけたのか。本を読むことすらできなかった彼が、日本語の書き手になるまでの苦闘を語る。著者は東京外国語大学大学院で博士号を取得。

『月曜日の抹茶カフェ』  
(青山 美智子著、宝島社刊)  
川沿いの桜並木のそばに佇む喫茶店「マーブル・カフェ」が、定休日の月曜日に、一度だけ「抹茶カフェ」を開くことに…。一杯の抹茶から始まる、東京と京都をつなぐ12カ月の心癒されるストーリー。

『地中の星』  
(門井 慶喜著、新潮社刊)  
誰もが不可能だと嗤った地下鉄計画。大隈重信のもとに押し掛け、渋沢栄一を口説き、資金も経験もゼロから東京に地下鉄を誕生させた早川徳次と技術者たちの熱き闘いを描く。昭和二年のプロジェクトX物語。

『ホオズキくんのオバケ事件簿4 オバケに時間をぬすまれる!?』  
(富安 陽子作・ポプラ社刊)  
「このごろ、ときどき、時間が消えるんだ。ぼくの時間だけが、消えちゃうんだよ」4年1組のオバケ探偵団に、2組の優秀生オサムから相談が…。

『カピバラのだるまさんがころんだ』  
(中川 ひろたか作・金の星社刊)  
「はじめのいっぽ!」の掛け声で、遊んでいるのはカピバラたち。最後のひと声で終わると思いきや…? ちょっぴりシュールで、面白さ満点の絵本。

※すべて町立図書館蔵書